

平成30年度「学校と地域をつなぐ協働活動セミナー」 報告
(地域学校協働活動事業 支援スタッフ研修会)

担当：古村

1 趣 旨	本県では、地域と学校が協働し、地域ぐるみで子どもを育てていく仕組みのひとつとして、地域学校協働活動事業を展開している。そこで、子どもを中心に学校・家庭・地域が「つながる」ことの教育的意義の理解、支援スタッフとしての資質向上により持続可能な協働体制の構築を図り、今後の地域・学校の連携・協働の推進に資する。
2 対象者	地域学校協働活動事業における地域コーディネーター及びボランティアスタッフ、教職員市町教育委員会職員、放課後の居場所づくり関係者、その他本研修会の趣旨に興味のある方
3 期 日	平成30年10月26日(金)
4 場 所	南筑後教育事務所 第1研修室
5 内 容	【講義】「支援スタッフとしてのかかわり方とその役割」 国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職 白土 智章 【講話・ワークショップ】「学校を核とした地域づくり」 山口県山陽小野田市 企画部 企画政策課 課長 和西 禎行 (前 山陽小野田市教育委員会事務局社会教育課長 兼 中央公民館長)

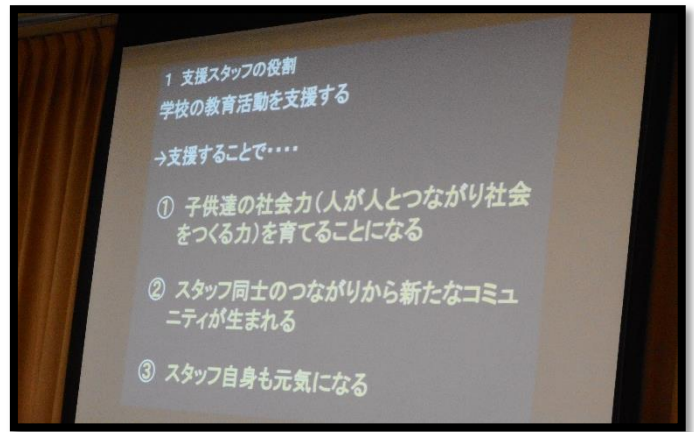
6 評 価

(1) アンケートから(参加者65名 アンケート提出57名)

評価項目		4	3	2	1	平均
総合評価	本日の研修会について総合的に評価してください。	40	14	3	0	3.6
◆講義について ○具体的で分かりやすい講義だった。配慮すること等、支援スタッフとして基本的事項を確認できた。 (支援スタッフ) ○講師の現場経験に基づいた具体的な説明で、体験活動が少ない子ども達に対して、より危険度が低く安全に見守る方法のイメージを描くことができた。 (地域コーディネーター) ○学校に地域の方や保護者が支援スタッフとして参加してもらっているが、その意義や関わり方、配慮すべきことを分かりやすく説明していただいたので、このことを(地域・保護者・教員)に伝えます。(学校管理職) ●パワーポイントの資料を配布してほしかった。 (地域コーディネーター) (※講師プロット、地域学校協働活動のための支援スタッフノートは配布済) ◆講話・ワークショップについて ○公民館が中間支援組織としての機能を学社融合に活かすことで地域学校協働活動事業がより充実していく過程が参考になった。素晴らしい実践を聞くことができて大変参考になった。 (公民館関係者) ○ワークショップで付箋を並べて具体的に考えてみたら、色々な角度からの見方や解決への道筋が見えてきてよかった。講話の内容をより理解することができた。 (地域コーディネーター) ○学校でこのワークショップをやってみます。刺激を受けたので一歩踏み出そうと思います。(学校管理職) ●もっと講話を聞きたかった。(校区コーディネーターの意義や予算等について) (地域コーディネーター) 〈全体的な感想・次年度への要望〉 ・「難しい・無理」の言葉はNG・・・これは、物事を進めていく上で大切なことだと思った。(地域コーディネーター) ・学校職員の意識の変革を促していかなければならない。(学校管理職) ・学校と地域をつなぐコーディネーターがなかなか見つからなくて困っている。(学校管理職) ・いい話ばかりの内容を聞きましたが、現在の課題・問題点も教えてほしかった。(地域コーディネーター) ・学校教育課と社会教育課にほとんど接点がありません。(行政関係)						

(2) 成果と課題

- 「地域学校協働活動のための支援スタッフノート」や青少年施設での経験をもとにした講義は、子ども達への具体的な関わり方について、とても分かりやすい内容だった。
- 地域学校協働活動が持続可能な仕組みづくりのために、公民館が地域の第2コーディネーターとして関わる山陽小野田市の事例や、様々な立場の参加者がワークショップにて考えを出し合うことは、新しい視点(考え方)を持ってもらう上で、大変有効であった。
- 講話やワークショップを行うには、もう少し十分な時間が必要だった。



【 講話：白土氏「支援スタッフとしての意義と役割」 】



【 講義「地域・学校・親の連携」 】

